

愛子さまを

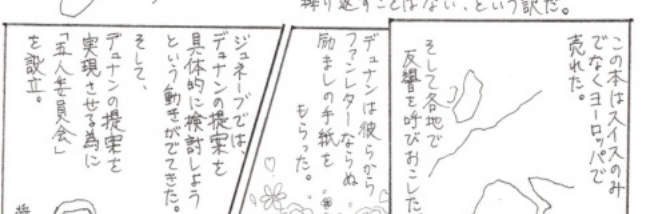
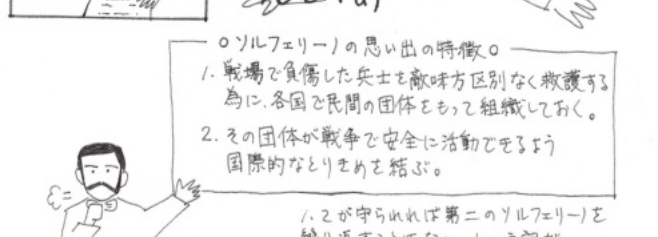
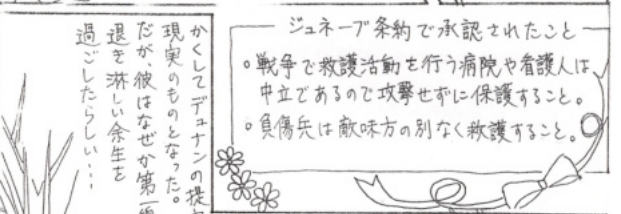
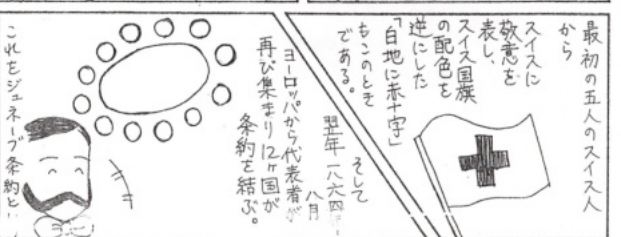
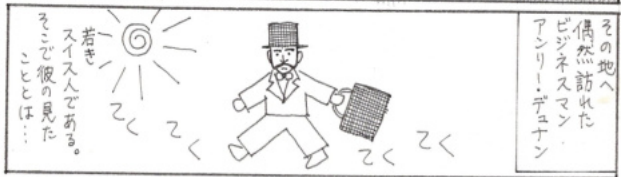
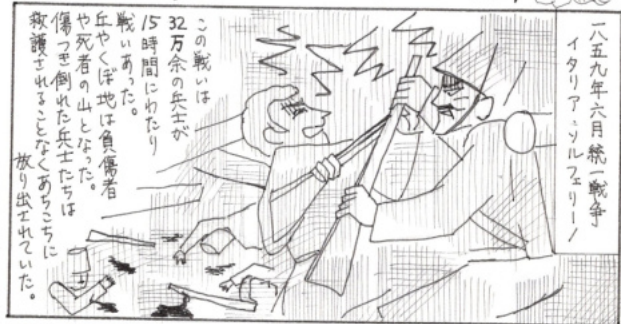
日本赤十字社に勤務が内定

応援します

「宮内庁は22日、天皇、皇后両陛下の長女愛子さまが4月から日本赤十字社（本社・東京都港区）の嘱託職員として勤務することが内定したと発表された。具体的な仕事内容などは未定。皇室から日赤に勤務するのは、故・寛仁さまの次女瑠子さまに続いて2人目」（朝日新聞デジタル2024年1月22日より）

◆ ◆
 こんばんは、おはようございます、またはこんにちは。天地成行です。元山口県高等学校青少年赤十字協議会会長として、愛子さまの今後のご奮闘を祈り、三十年ほど前に姉が書いてくれた三ページまんが「赤十字のはじまり」をはじめ、二ページで「みんなつど」！

赤十字・Red Crossのはじまり



五輩、新春の痛みデアル ——周南市の桑田さん

新春から愛猫の「玉弘（たまひろむりオス15歳）にかまれてしまった、周南市の桑田さん（60代）。その手には痛々しい痕（あと）が……。家の扉を開けていて、いつの間に外出し、帰れなくなった玉弘。探しにいった桑田さんは雪の中、ある家の軒下で興奮していたらしく……。



滑稽俳句協会さんから来ました！ 『ココロトノウ、俳句ごっこ』感想



天地成行・著

俳句
ごっこ

ココロトノウ



河村正浩先生を通して、滑稽俳句協会事務局の日根野聖子さんから、『ココロトノウ、俳句ごっこ』（天地成行著、2023年）の感想が届きましたのでお知らせいたします。

◆ ◆ ◆
拝啓 寒冷の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます

『ココロトノウ、俳句ごっこ』のご惠贈、ありがとうございました。

作者の天地成行さんが自身の病名を公表され、ありのままの文体、構成で書かれているところが読み手に親近感を与えてくださり、スラスラとあつという間に読めました。著名な俳人の“俳句論”“俳句理念”のような、堅苦しい仰々しさがなく、とても楽でした。

天地さんは、自由律の才能をお持ちですね。独自の完成がキラリと光っておりますね。

俳句の作品も文章も楽しかったのですが、私は、河村先生の添削指導の過程が、一番勉強になりました。特に、認知症の方への俳句指導は、かなり高度で総合的な力が必要ですが、素晴らしい活動と思えました。

何故、「定型」を薦めるのかの説明も納得でした。

統合失調症は身近な病気で、私の後輩、近所にも、いらつしやいます。どの方も誠実で心の優しい方ばかりです。河村先生の、俳句に対する柔軟な考え方、人に対して公平で優しい視線をお持ちであることが、天地さんとのご縁に繋がられたのだと感じました。

俳句セラピーは、俳句を作れば癒されるというものではなく、俳句を指導する指導者の人格が重要と感じます。

俳句の力と、国語力と、人格です。
ココロ乱れる、乱されることの多い毎日ですが、だからこそ、型に収める力も大事なのかもしれません。

素敵な本との出会いに、感謝、感謝でございます。立春まで、あと少し。厳しい寒さには、どうぞくれぐれもご自愛くださいませ。

敬具

滑稽俳句協会 事務局 日根野聖子
※この本に関するお問い合わせは、tenchi2020@outlook.jp

みんつど第40号

編集：天地成行